令和7年第2回定例会行政報告

本日ここに、令和7年第2回定例会を招集しましたところ、議員各位にはご多用な折、出席いただきまして、御礼申し上げます。

只今、議長のお許しをいただきまして、議会に先立ち、行政報告として、直近の主要事業や政策課題の進捗状況など、行政活動の一端を申し上げ、議会の皆様始め、町民の皆様のご理解ご協力をお願いする次第であります。

3月定例会で議決いただいた令和7年度当初予算も4月より順調に取り組みを進めているところですが、今回の行政報告では、前回の行政報告以降、すなわち昨年12月以降を主な対象とし、

1. 5月25日開催の竹灯籠の夕べ
 2. 中井町ウィークエンドウェザーチャンネルの開設
 3. 人材育成基本方針
 4. 生涯学習施設公開プロポーザル
 5. 星槎なかいスタジアムのスコアボード改修等
 6. オンデマンドバスの車両更新
 7. ネウボラの拡充
 8. 総合防災訓練の冬期開催
- 以上、8点についてご報告いたします。

今回で20回目となる巖島湿生公園竹灯籠の夕べは、天候不順により1日順延し5月25日に開催され、竹害から竹財への取り組みの中、復活した「マイ竹灯籠づくり」には30作品が寄せられたほか、戦後80年の節目を控え、中井町遺族会や中井町自衛隊協力会のご賛同のもと、「平和と感謝」をテーマにしたオブジェのほか、町内出身ミュージシャンの高田蓮氏による演奏に触れる機会を持ち、静けさの中にもにぎわいのあるイベントとなりました。遺族会の方からは「高齢化に伴い継承が難しくなったと感じる中、思いが繋がれた」との声もいただきました。1日順延の影響も心配されましたが、昨年に近い数の来場者もあり、県内各地からまた県外からも関心のある方が訪れています。

順延判断で最も参考としたのは、4月より動画投稿サイトで開始した「中井町ウィークエンドウェザー」による、ピンポイント天気予報です。

天気予報というもっとも日常に密着した情報を、専門家である気象予報士が本町に特化して予報。気象にまつわる話題とともに解説し、週末のイベント情報や本町ならではの歳時記等をお伝えしています。チャンネル登録者も増加、農家

の仕事にも役立っているようで、災害への備えもお伝えできると考えています。

本事業は、他では得られない情報をお届けすることで、町民との信頼関係やシビックプライドを醸成し、「見たい、知りたい、かかわりたい」とエンゲージメントを深めていく、いわゆるオウンドメディアの発想に基づいています。

本年度当初予算は「人を大事に仕事で応える全力疾走予算」と銘打ち、本町で働く職員の処遇改善も一つの柱としたところですが、本年3月に20年ぶりの改訂となった「町人材育成基本方針」は、一連の処遇改善と双子の関係にあると考えています。

私自身が、就任直後、会計年度任用職員を含む、すべての町職員と面談し、職員のやりがいと働きやすさの課題点を受け止めました。これらに対し、単発で解決策を打ち出すのではなく、透明性の高い組織づくりの方向性を示すことが肝要と考え、前回の策定から20年来培われてきた、ワークライフバランスの考え方や各種の制度を再体系化し、アンケート等で実情や課題を見える化する中で、単に人材育成という以上、職員との「あらたなコントラクト(協約、協定、約束)」との思いで策定しました。

この方針に基づき、町民に喜ばれる温かく活気ある町役場のために、働きがいや働きやすさを確保しながら、働く人が高め合い、「迅速・正確・親身」に関われる、「応える町政」を実践してまいります。

議会においても、継続して生涯学習施設建設等特別委員会で審査されているところですが、役場周辺拠点整備(比奈窪56プラン)を含め、本町で四半世紀ぶりとなる大型公共建築である、生涯学習融合施設は、現在、基本設計の段階にあり、それに伴うワークショップ「わいがやサロン」を開催しています。

町民からの56に分類される提案を、合意のもと吟味し、まとめられた今回の基本構想、基本計画に基づき、設計者を決めるプロポーザルが昨年末から今年2月にかけて開催され、全国から33者の応募があり、2月15日には一次審査を通過した5者による公開審査が行われ、SUGAWARADA ISUKE建築事務所が選ばれました。

審査員に、ランドスケープの第一人者を擁したほか、わいがやサロンに参加した、これからの施設を「使いこなす、使い倒す」若い世代の女性が、審査員として真摯に質問し意見を述べたことは、本プロポーザルを意義あるものとしたと参加した設計者も述べています。

公開プロポーザルを中継した動画は5時間弱の動画ながら、2900回再生され、今回の町民参加型の基本構想・基本計画、また透明性の高いプロポーザルはすでに「中井町モデル」として建築関係者の間で注目されています。

公共施設等総合管理計画やそれに基づく長寿命化計画に基づく既存公共施設の改修等も行われています。平成10年、かながわ・ゆめ国体に合わせて整備された中井中央公園野球場「星槎中井スタジアム」では、長年不備があり、ねんりんピック等の大会開催に際しても不便をかけてきた、スコアボードをフルビジョンの電光掲示板と改め、3月中旬より供用を開始しています。

合わせて内野観覧席の防水工事や土の入れ替えも行うことで球場としての価値をあげ、今年度改修する音響設備と合わせて、大会誘致や多目的な利活用の道が開けてきました。

実証実験開始より12年目となったオンデマンドバスは、車両更新期を迎え、ドライバーが絶対的に不足する2024年問題も鑑み、6人乗りまでの乗り合いが乗り合い件数全体の98.2%を占めていることから、普通免許でも運転できる7人乗り車両に更新しました。青を基調としたカラーリングがこれまで以上に目を引くと言われます。また交通系ICカードでの運賃清算が可能となり利便性が向上したことなどから、利用者も増加傾向にあります。今後の公共交通の課題をにらみながら、より利便性の高い運行を目指してまいります。

子どもや若者の権利が保障され、健やかな成長を社会全体で後押ししようと「こどもまんなか社会」の実現が求められる中、本町では3月策定の中井町第三期子ども・子育て支援事業計画に基づき、これまで設置されていた「子育て世代包括支援センター（里都まち♥なかいネウボラ）」と「子ども家庭総合支援拠点」を統合し、「子ども家庭センター（なかいネウボラ）」として切れ目ない相談支援体制を実現しました。ワンストップで子どもたちや子育て家庭の課題を受け止めるとともに「統括支援員」を置き、課を超えた連携体制をより一層強めて、伴走型支援へとつなげていきます。

関東大震災が起きた9月1日を防災の日とし、町もその前後に総合防災訓練を行ってきましたが、熱中症等の二次的被害を起こしかねない猛暑が続いており、日程を改めることとし、昨年度は2月8日、境地区を重点地区とする訓練を行いました。当日はドローンによる物資運送のデモンストレーションも行われました。今後は、11月前後を目安にしながら、気候に左右されず、自助共助そして公助が機能する、より効果的な避難訓練ができるよう取り組んでまいります。

町民のウェルビーイングの向上を主眼とし、来年度から始まる第七次中井町総合計画を策定しています。ウェルビーイング指標を本格的に活用する中で、アンケート分析から得られた町民の幸福感に強く影響する5つの要素から方向性を導き出しました。その中の一つに「ゆるやかな人のつながりと地域の絆」があげられており、一般質問でも複数の議員より取り上げていただいておりますが、「よい繋がり」は、災害時であっても日々の暮らしにあっても不可欠であると改めて実感します。今議会でも活発な議論となりますようお願い申し上げ、行政報告といたします。

令和7年6月3日

中井町長 戸村裕司